

県立学校学習空間デザイン検討委員会 整備計画最適化専門部会における事務局案

2019.9.13

今までの検討内容及び7月25日の視察を踏まえ、議論していただきたい内容を以下のように整理しました。
(PFI、地域開放等に関する課題整理が中心。課題洗出し、解決策までご検討いただけましたら幸いです。)

1 PFI

○教育施設とPFI

学校教育法で教育そのものは委託出来ないことから、教育施設で民間活力をどう活かすのか
教育施設において、民間活力を入れる要素が少ない場合、PFIによるメリットは

学習空間の質を高めることとランニングコストを含めたコスト削減が最優先・最重要
PFI事業では、空間の質の向上をテーマにしにくいいため、検討委員会のメインテーマをどう考える

導入可能性調査により、一定のVFMは算出されると思うが、コスト面以外の比較や検討は
教育施設としての価値、学習空間としての質など、VFMだけではない総合的な判断

○メリット、デメリット

財政支出の平準化は図れるが、複数の学校で採用すると、割賦払いの長期的支出が複数重なる

維持管理委託により事業者が常駐することになるため、施設の維持管理が教員から解放される。
建設後も高額な維持管理運営費の支出が続く。
民間によるサービス提供が適正に行われているか、事業者のモニタリング

○民間の負担

事業終了後、施設的には劣化が生じることもあり得るため、終了の際に、どのような状態で
施設の引継を受けるか

事業終了した後も、同様なPFI事業で維持管理を委託する場合は、中古の状態となる施設でも民間業者が
応札するような、魅力的な学校施設

2 地域開放

地域開放する部分を共有化する場合、教育施設への影響も生じる（屋内プールの湿気等）

地域開放については、共有利用による複合化、多用途施設の併設等がある。

複合化、併設ともに、外部からの利用者の動線、地域開放のゾーニング

学校の図書館と公立図書館分館を連携するよう配置し、通常機能（蔵書数等）の強化を図る例

建築基準法の用途地域の規制に適合する場合は、社会体育施設として体育館を整備し、学校が借りるこ
も考えられるが、地元市町村等との整備計画及び考え方を整理する協議

3 スtock活用

県立高校の体育施設利用率から、夜間や土日は体育館等の地域開放（貸出）の可能性

近隣のプールを利用することで、全校均質整備のプールを考える

近隣プールを利用する場合は、距離等を勘案し、実現性と近隣プールまでの移動コストを検討

4 長期的な視点

施設整備の際、ハイテク（高機能な設備の導入）指向とすると、維持管理の専門性が高くなり、
一定期間後の改修についても高額となるため、最適な技術の導入の検討を行いながら、
一般の職員が維持運営できる施設

学校敷地周辺の将来的可能性を検討し、生徒数の増減を見込んだ整備計画を策定する。

段階的な地域開放についても検討する。当初は学校施設として整備し、生徒数減少に伴い、
一部を地域に開放、または他用途に転用し、学校施設を社会的なStock利用につなげていく。